

- 1 ①擬人法 ②直喩 ③隠喩

考え方〇〇 ①人でない「桜の木」が「ほほえみかける」ので、擬人法。

- 2 ①公園の、きれいに生えそろうたぐ 芝生

- 3 ①一枚の絵 ②灯台 ③ガラス

考え方〇〇 ①は「のようだ」、③は「みたいに」という表現から、それぞ
れ直前の言葉にたとえていることがわかります。

- 4 ①例早く過ぎる ②例貴重である

TEST
まとめテスト①
P.14-15

- 1 ①ア ②イ ③ア

- 2 ①〈近くの〉神社 ②〈長い〉石段

ヒント それぞれ直前から探します。

- 3 ①ウ ②エ ③ア ④イ ⑤オ ⑥カ

- 4 ①波のまえをはしる波…… ②①波 ②イ ③ウ

考え方〇〇 ①「白い」も手がかりにして、「一・二行めの「波」をとら
えます。②「まるで〜ようだ」などの言葉を使わずに「波」を「白い馬」に
たとえているので、隠喩です。

- 1 ①きれいに ②影をふみふみ ③先生に質問へを

ヒント 言葉の形、順序、使い方に気をつけましょう。

- 2 ①イ・ウ ②ア・エ

- 3 ①段落 ②文 ③単語 ④文節

- 4 ① ② ③ ④ ⑤

考え方〇〇 「。」「」だけでなく、「！」などの符号で区切ったまとも一文
です。

- 1 ①ウ ②イ ③ウ ④イ

ヒント 区切るところに「ネ」を入れて、自然に読めるかどうか、確か
めてみましょう。

- 2 ①ニ ②三 ③四

考え方〇〇 文節に区切ると①「芽が／出た。」②「月に／雲が／かかる。」
③「幼い／妹と／手を／つなぐ。」となります。

- 3 ①学校へ／行く。 ②弟と／遊ぶ。

③家族で／ハイキングに／行く。

④友達が／国語の／教科書を／読む。

⑤赤い／電車が／ゆっくり／止まる。

7 文節を単語に分けよう
P.23

- 1 ①夕食／を／食べる。 ②空／が／とても／青い。

- 2 ①イ ②ウ

- 3 ①三 ②五 ③五

考え方〇〇 単語に区切ると、①「夏／は／暑い。」②「七色／の／虹／
が／かかる。」③「ね／が／あくび／を／する。」となります。

- 4 ①家／に／帰る。 ②白い／犬／を／なでる。

8 文節や単語の紛らわしい分け方
P.25

- 1 ①イ ②ア

考え方〇〇 ①「て」のあとは文節の切れ目なので、「見て／いる」と区切
れます。②「〜らしい」「は文節に区切れないので」「すゝらしい」「は一文節
です。

- 2 ①明日は／雨が／降るそうだ。

②母が／いちばん／背が／高いようだ。

③だれもが／祭りを／楽しんで／いる。

考え方〇〇 ①「降るそうだ」、②「高いようだ」が一文節であること、③「楽
しんで／いる」「が一文節に区切れることに注意しましょう。

- 3 ①〇 ②〇 ③話し／た ④話し／た

考え方〇〇 ②「話し／た」と「話し／た」と合う「が結びついてきた複
合語で、「単語。③「話した」は「話す」という単語に「た」という過去
を表す単語が付いたもので、「単語。④「話し／た」と「話し／た」と「単語。

- 4 ①ウ ②ウ ③イ

ヒント 複合語や、単語のあとに付いて意味をそえる語は、それぞれ一
単語と考えましょう。

1 エーイ→オー→ア→ウ

2 ①Aア Bウ ②Aイ Bウ

3 ①小鳥が／鳴く。
②祖母の／肩を／たたく。

4 ①漢字／の／練習／を／する。
②ボール／が／こぼる／ころ／転がる。

5 ①ア ②イ

6 ①イ ②ウ
【考え方】 ①「勝ったらしい」の「た」は過去、「らしい」は推定の意味をそえる単語です。

7 (1)①③ (2)⑦ (2)例この二種類の違いを挙げてみる

(3)①水／の／きれいな／ところ／に／生息する。

②水／の／きれいな／ところ／に／生息する。

9 文の成分／主語

1 ①独立語 ②述語 ③修飾語 ④主語 ⑤接続語

1 ①おいしーい ②はわやかーい

2 ①雲が ②な－い－ふを ③食へよう ④は－し－や－い－だ

3 ①図書館の ②公園を ③今朝

4 ①ウ ②エ ③ウ ④エ

【ヒント】 修飾語は、ふつう被修飾語の前にあるので、——線部の修飾語は、これより前の文節を修飾することはありません。ただし、すぐあとの文節を修飾するとは限らないので、あとにある文節のうち、自然につながる文節を探しましょう。

12 接続語／独立語

1 ①イ ②ア ③ア ④イ

2 ①ウ ②イ ③ア

3 ①イ ②エ ③ア ④ウ

4 A 忙しいのへ B 早く
【考え方】 「A 忙しいのへ」は、あとの理由を表す接続語、B「早く」は応答を表す独立語です。

13 連文節

2 だれが・文節・は

3 ①× ②○ ③×

【考え方】 ①主語は「ほくは」です。③「私は」「ほくは」などの主語が省略されています。

4 ①兄さんは ②彼女だけ ③雪さえ
④山田さんが ⑤大川さんも

【ヒント】 主語には「が」「は」以外の語が付く形もあります。

10 述語

1 ①エ ②ア ③イ ④ウ

2 ①ない ②吹きつける ③静かだ

【ヒント】 文の述語は、多くは、文の最後にあります。

3 ①述語…ある 主語…家が

②述語…言い合った 主語…みんなが

③述語…入りたい 主語…ほくは

④述語…目玉焼きだ 主語…料理は

⑤述語…おもしろかった 主語…本も

⑥述語…聞こえる 主語…歌声が

11 修飾語

1 文節

2 ①接続部 ②修飾部 ③主部 ④述部 ⑤独立部

3 ①姉と私は ②よくなかった ③ほくのクラスに

④雪が降ったので ⑤ねえ、お母さん

TEST 3 まとめテスト③

1 ①兄は ②吉川君だけ

2 ①A笑顔は Bすてきた ②A母も B気づいたようだ
③A話さえ Bできなかった

3 ①だれの…姉の どのような…かっこいい
②いつ…放課後 何を…野球を

4 ①イ ②エ ③エ ④イ

5 ①接続語…したがって 接続語の意味…ア
②接続語…雨なら 接続語の意味…ウ

6 ①独立語…一致団結 独立語の意味…ウ
②独立語…ほう 独立語の意味…イ

7 (1)a主部 b独立部 (2)息子だからね
③主語…ボクは 述語…反論する

14 主・述の関係

P.41

- 1 ①オ ②ウ ③ア ④エ ⑤イ

- 2 ①来るまで ②冷たいが ③高い ④話した ⑤怒るとは

3 主・述の関係：イ 文の成分：主部

【考え方】 連文節イは、文全体の主部で、主・述の関係（主語は「ぼくが」、述語は「好きなのは」をふくんでいます）。

15 修飾・被修飾の関係／接続の関係

P.43

1 修飾・被修飾の関係：オ 接続の関係：イ

- 2 ①いつせいで 走り出す 連用 ②白い 帽子が 連体 ③そのそよよと 吹く 連用

【ヒント】 「何・だれ」などの体言をふくむ文節を修飾するのが連体修飾語、「てななだ・びびりする」などの用言を修飾するのが連用修飾語です。

3 ①かわいい 子犬が こちらを 見た。

- ②日曜日「私 友達と遊ぶ。」

【考え方】 ①「日曜日」「も」友達と「も」、遊ぶ「を」を修飾しています。

4 ①びびりびびり ②寒いなら ③だから

16 並立の関係

P.45

- 1 ウ

- 2 ①激しく ②カスミンウで ③にぎやかだ ④から揚げの

3 ①マグロやウニの ②画期的ですばらしい

【ヒント】 順序を入れかえても意味が変わらない二つの文節を探しましょう。入れかえるとき、文節全体ではなく一部を入れかえたり、言葉の形を変えたりすることもあります。

【考え方】 ①「ウニやマグロの」、②「すばらしく画期的だ」と言っても、意味は変わりません。

4 ①大きな赤い ②さわやかに明るく ③野球とサッカーが

17 補助の関係

P.47

- 1 イ

- 2 ①イ ②ウ ③ア

- 3 ①しましう ②ない ③ない ④くれた ⑤あるのは

4 ①している ②現実的でない

【考え方】 「〜ている」「〜いる」「〜でない」の形の二文節は、補助の関係になります。

TEST まとめテスト④

P.48 49

1 ①言う ②到着したのは ③葉が ④ほくだけ

【考え方】 ①「彼が」、②「シユンが」は主語なので、主・述の関係にある文節として、述語を探します。③「染まる」、④「しかられる」は述語なので、主語を探します。主語は、何が「染まる」のか、だれが「しかられる」のかを探すと、わかります。

2 ①静かな ②てびるびり ③時計の ④居間

【考え方】 ①「ても」、②「たぶん」は、それぞれ「静かな」でできるだるつ「を」を修飾しています。一方、③「針が」、④「ある」は、どちらも他の文節を修飾していません。修飾・被修飾の関係にある文節としては、これらを修飾している文節を探します。「針が」を修飾しているのは、「時計の」、「あ」を修飾しているのは「居間」です。

3 ①悲しかったので ②ても

4 ①国語と算数の ②甘くて大きい ③せまくない ④読んでほいで

5 ①イ ②エ ③ア ④オ ⑤イ ⑥エ ⑦ア ⑧ウ

6 ①ウ ②イ ③ア ④イ

【考え方】 ①アは修飾・被修飾の関係、イは接続の関係。②アは補助の関係、ウは主・述の関係。③イは補助の関係、ウは修飾・被修飾の関係。④アは主・述の関係、ウは並立の関係。

18 単語は「自立語」と「付属語」に分けられる

P.53

1 ①カレーライス…自立語 は…付属語 おいしい…自立語

②そろそろ…自立語 帰り…自立語 たい…付属語

【ヒント】 自立語は、必ず文節の初めに、一つだけあります。付属語は、文節の中で必ず自立語のあとにあります。一つもない場合などもあります。

2 ①イルカ・ショー・見る ②来週・姉・修学旅行・行く

（それぞれ順不同）

【考え方】 「そっだ」は、自立語と紛らわしいですが、前の「行く」に伝え聞いたという意味を付け加える、付属語です。

3 ①徒歩で三十分もかかる。 ②リサは私の親友だ。

③波の音が聞こえた。

【ヒント】 見ただけでわかりにくい場合には、まず文節に区切って考えてみましょう。文節の中で自立語のあとにあるのが付属語ですが、①「かかる」のように自立語だけの文節もあります。

4 ①家族にプレゼントをもらつて。

②アジサイの花がとても美しい。

③明日テストがあるそっだね。

④先輩のみなさん、選手になりたい。

【考え方】 ③「あるそっだね」の「そっだ」「ね」、④「先輩のみなさん」の「の」のように、付属語は「文節に一つとは限りません」。

19 単語は「活用する・しない」も分けられる

P.55

- 1 ① ○ ② ○ ③ × ④ ○

ヒント あとで「ない」を付けてみて、言葉の形が変わるか調べてみましょう。言葉の形が変われば、活用する語です。言葉の形を変えられず、「ない」を付けることができないければ、活用しない語です。

考え方 ○ 「あつた」なら「を付けてと①」きれいだ「は」きれいでない、「眠める」は「眠めないう②」「苦しい」は「苦しくないう③」となりずす。「ほんのり」を、ほんのりなら「ほんのりない」などとするのではできません。

- 2 ① ま・み・ん ② く・かつ ③ て・だう

ヒント 解答らんどの□の数も参考にしてください。どのように活用するか考えましょう。

- 3 ① 楽しい ② 勉強する ③ 清らかだ ④ 負け・悔しい
⑤ かわいい・見つめる ⑥ オぼく・鮮やかだ

(4)~(6)はそれぞれ順不同

ヒント 活用する語を書きぬくときは、文中で使われている形のまま書きぬきましょう。

20 品詞を分類して覚えよう

P.57

- 1 (○)で囲むものを上から

- ① 自立語・活用しない・主語になる
② 付属語・活用しない ③ 自立語・活用する・述語になる

TEST まとめテスト⑤

P.58 59

- 1 ① 薄い・布団・しまう ② 母・すぐ・到着する (それぞれ順不同)

- 2 ① 会いたい／人が／いる。 ② 長い／手紙を／書いた。

ヒント 文節の中で自立語のあとにあるのが付属語です。

- 3 ① 親切で ② まぶしかつ ③ 呼ん

- 4 ① 元気な・育つ ② 畑・に・野菜・が (それぞれ順不同)

- 5 ① 体言(名詞)…実験
用言(動詞)…試み

活用しない付属語(助詞)…を
活用する付属語(助動詞)…たい

② 体言(名詞)…面積
用言(動詞)…わから

活用しない付属語(助詞)…は
活用する付属語(助動詞)…ない

③ 体言(名詞)…数学
用言(形容動詞)…得意だっ

活用しない付属語(助詞)…が
活用する付属語(助動詞)…た

- 6 ① 参道・屋台・たくさん・並び(順不同)
② 熱い・感じる(順不同) ③ 遊ん

考え方 ○ ①「学校」は「は」が「を付けてみるよ」の「学校は(近い)」「学校や、」学校が(始まる)「などのように、主語になります。よって「学校」は体言(名詞)です。

- 2 体言…日本・これ・パンタ 用言…広い・歩く・重要だ (それぞれ順不同)

ヒント 活用しない自立語で、「は」「が」などを付けて主語になれるものが体言、活用する自立語で述語になれるものが用言です。

- 3 ① 体言(名詞)…雨
用言(動詞)…降る

活用しない付属語(助詞)…は
活用する付属語(助動詞)…ない

② 体言(名詞)…今年
用言(形容詞)…寒かつ

活用しない付属語(助詞)…も
活用する付属語(助動詞)…た

③ 体言(名詞)…ボランテニア
用言(動詞)…参加し

活用しない付属語(助詞)…に
活用する付属語(助動詞)…たい

▼活用してみよう…
「降る」(動詞) …降らない・降ろう・降ります・降った
「寒い」(形容詞) …寒かろう・寒かっただ・寒くない・寒いとき
「寒ければ」 …寒かろう・寒かっただ・寒くない・寒いとき
「ない」(助動詞) …なかるう・なくて・なかった・ないとき
「なければ」 …なかるう・なくて・なかった・ないとき

21 物事の名前を表す「名詞」

P.61

- 1 ① 自立・しない ② 名前 ③ 主語

- 2 ① × ② ○ ③ ○ ④ ○

考え方 ○ ①「おいしい」「は」「は」「は」が「を付けてみるよ」は「おいしいが」となって、主語になることはできません。よって、名詞ではありません。他は、②「五年は」が、③「彼女は」が、④「都会は」が「のように」、主語になるので、名詞です。

- 3 ① 述語 ② 主語 ③ 修飾語

- 4 ① A E B A ② A O B E
③ A U B A ④ A A B E

考え方 ○ 代名詞には、①「私」のような人を表すものと、②「この」のような指示する語句(こそあど言葉(本冊6ページ))があります。(指示する語句は名詞以外の場合もあります。)

1 ①か・が ②せり・しり・ひり・ひり

2 ①か ②が ③せり・しり・ひり ④しり・ひり ⑤せり・ひり

【考え方】①「くわんげん」(管弦)は「管楽器と弦楽器。楽器。音楽。」④「せうじん」(小人)は「少年。子ども。徳のない人。」などの意味です。

3 ①あやしゅう ②もうてきたりし

TEST

まとめテスト⑧

1 ①おもいで ②なまよう ③とおり ④かえる ⑤あわれ

2 ①かおり ②うしろし ③おのらい ④いん

3 ①るじ ②しずむ ③かんざし ④がんじつ

4 ①ならん ②めいたたかわん

【考え方】①「あひ戦はむ」は、八行の「ひ」「い」「い」「は」「は」「わ」と「む」と「ん」を直します。また、「戦」もひらがなに直して答えます。

5 ①ろう ②じよう ③しじゆ

6 ①いらう ②おひさず ③つかいけり ④なん ⑤うつくしゅうへい

1 ①しみじみと心打たれる ②めったにない ③その味

【ヒント】古文と現代語訳を対応させ、——線部の前後の言葉や句読点に注意しながら、——線部にぴったり合う部分の意味を書きめきましょう。

【考え方】次に、現代語・古語のそれぞれで、よく使われる(または基本となる)意味を挙げます。①現代語の「あわれ」は「かわいそう・情けない」という意味ですが、古語の「あはれ」は「しみじみと心打たれる気持ちを表します。②現代語の「ありがたしい」は「感謝したくなる気持ちを表しますが、古語の「ありがたし」は「めったにない」という意味です。③現代語の「やがては」そのうち」という意味ですが、古語の「やがて」は「すくなく・その味」という意味で、ここは「寝たままの状態を表します。」

2 ①イ ②ウ ③イ

【考え方】①「このお」は「寝ていた人が門をたたく音で」目を覚ます「このことを表します。②「この」は「もとのまま」そのま(「同じ所にいることを表します。」

32 古語の意味②

1 ①あな…ああ いみじ…ひどい ②空 ③なるほど

2 ①ア ②ウ ③イ

【考え方】①「あな」は「早朝・習朝」という意味で、例文は「冬は早朝(に)趣がある」という意味です。②「のたまふ」は「言ふ」に尊敬の意味を加えた敬語で、「おっしゃる」という意味です。

TEST

まとめテスト⑨

1 ①ウ ②イ ③ア

2 ①幼い子 ②おっしやる ③西上がったのて ④かわいらしい

3 ①いらつしやる ②ほすの ③かわいらしい ④たいへん

4 ①早朝 ②似つかわしい ③感心しない

33 故事成語

1 助長

【考え方】「助けて長せしむ」の「助長」です。「子どもにせいたくな生活させると、わがままを助長しそうだ。」「彼をみんなに紹介して、交流を助長する。」などのように使います。

2 ①故事成語…A 故事…イ ②故事成語…C 故事…ウ

③故事成語…B 故事…ア

34

訓読文を読む①

1 ①上 ②下

2 (上から)①イ・マ・ウ ②ア・ウ・イ

1 ①しみじみと心打たれる ②めったにない ③その味

【ヒント】古文と現代語訳を対応させ、——線部の前後の言葉や句読点に注意しながら、——線部にぴったり合う部分の意味を書きめきましょう。

【考え方】次に、現代語・古語のそれぞれで、よく使われる(または基本となる)意味を挙げます。①現代語の「あわれ」は「かわいそう・情けない」という意味ですが、古語の「あはれ」は「しみじみと心打たれる気持ちを表します。②現代語の「ありがたしい」は「感謝したくなる気持ちを表しますが、古語の「ありがたし」は「めったにない」という意味です。③現代語の「やがては」そのうち」という意味ですが、古語の「やがて」は「すくなく・その味」という意味で、ここは「寝たままの状態を表します。」

2 ①イ ②ウ ③イ

【考え方】①「このお」は「寝ていた人が門をたたく音で」目を覚ます「このことを表します。②「この」は「もとのまま」そのま(「同じ所にいることを表します。」

32 古語の意味②

1 ①あな…ああ いみじ…ひどい ②空 ③なるほど

2 ①ア ②ウ ③イ

【考え方】①「あな」は「早朝・習朝」という意味で、例文は「冬は早朝(に)趣がある」という意味です。②「のたまふ」は「言ふ」に尊敬の意味を加えた敬語で、「おっしゃる」という意味です。

3 (上から)①1・2・3 ②2・1・3 ③1・3・2

【考え方】①返り点がないので、上から順に読んでいきます。②し点のすぐ下の「之」から、すぐ上の「誉」に返って読み、次に「田」を読みます。③まず「田」を読み、し点のすぐ下の「水」から、すぐ上の「引」に返って読みます。

4 (上から)心・心・伝

【考え方】「以心伝心」は四字熟語として使われ、「言葉にしないで、おたがいに心が通じ合うこと」という意味です。これに返り点や送りがないを付けて読むと、「心を以て心に伝ふ(心によって心に伝える)となり、意味もわかりやすくなります。」

35 訓読文を読む②

1 し点 一・二点

2 (上から)①ア・イ・ウ ②イ・ア・ウ ③イ・ウ・ア

①返り点がない場合、②し点がある場合、③一・二点がある場合を比べながら、それぞれの順に読むか考えてみましょう。

3 (上から)①3・1・2 ②3・1・2 ③3・1・2・4

【考え方】①「二が付いた」聞「はとばして、一が付いた」鳥「まで」啼「鳥」と読み、二が付いた「聞」に返って読みます。

4 (上から)悪・事・千・里・行

【考え方】「悪事千里を走る」という故事成語があります。「悪い行いやよくない評判はすくなく世間に知れわたる」という意味です。

(上から)①イ・マ・ウ ②ア・ウ・イ

1 ①上 ②下

2 (上から)①イ・マ・ウ ②ア・ウ・イ

2 ①故事成語…A 故事…イ ②故事成語…C 故事…ウ

③故事成語…B 故事…ア

34

訓読文を読む①

1 ①上 ②下

2 (上から)①イ・マ・ウ ②ア・ウ・イ

1 ①しみじみと心打たれる ②めったにない ③その味

【ヒント】古文と現代語訳を対応させ、——線部の前後の言葉や句読点に注意しながら、——線部にぴったり合う部分の意味を書きめきましょう。

【考え方】次に、現代語・古語のそれぞれで、よく使われる(または基本となる)意味を挙げます。①現代語の「あわれ」は「かわいそう・情けない」という意味ですが、古語の「あはれ」は「しみじみと心打たれる気持ちを表します。②現代語の「ありがたしい」は「感謝したくなる気持ちを表しますが、古語の「ありがたし」は「めったにない」という意味です。③現代語の「やがては」そのうち」という意味ですが、古語の「やがて」は「すくなく・その味」という意味で、ここは「寝たままの状態を表します。」

2 ①イ ②ウ ③イ

【考え方】①「このお」は「寝ていた人が門をたたく音で」目を覚ます「このことを表します。②「この」は「もとのまま」そのま(「同じ所にいることを表します。」

32 古語の意味②

1 ①あな…ああ いみじ…ひどい ②空 ③なるほど

2 ①ア ②ウ ③イ

【考え方】①「あな」は「早朝・習朝」という意味で、例文は「冬は早朝(に)趣がある」という意味です。②「のたまふ」は「言ふ」に尊敬の意味を加えた敬語で、「おっしゃる」という意味です。

3 (上から)①1・2・3 ②2・1・3 ③1・3・2

【考え方】①返り点がないので、上から順に読んでいきます。②し点のすぐ下の「之」から、すぐ上の「誉」に返って読み、次に「田」を読みます。③まず「田」を読み、し点のすぐ下の「水」から、すぐ上の「引」に返って読みます。

4 (上から)心・心・伝

【考え方】「以心伝心」は四字熟語として使われ、「言葉にしないで、おたがいに心が通じ合うこと」という意味です。これに返り点や送りがないを付けて読むと、「心を以て心に伝ふ(心によって心に伝える)となり、意味もわかりやすくなります。」

35 訓読文を読む②

1 し点 一・二点

2 (上から)①ア・イ・ウ ②イ・ア・ウ ③イ・ウ・ア

①返り点がない場合、②し点がある場合、③一・二点がある場合を比べながら、それぞれの順に読むか考えてみましょう。

3 (上から)①3・1・2 ②3・1・2 ③3・1・2・4

【考え方】①「二が付いた」聞「はとばして、一が付いた」鳥「まで」啼「鳥」と読み、二が付いた「聞」に返って読みます。

4 (上から)悪・事・千・里・行

【考え方】「悪事千里を走る」という故事成語があります。「悪い行いやよくない評判はすくなく世間に知れわたる」という意味です。

- 1 ひらがな ② 歴史的 ③ ひらがな・助動詞・ひらがな

2 (上から)

- ① 漢字を読む順番…2・1
書き下し文…行ふ
- ② 漢字を読む順番…3・1・2
書き下し文…人事・尽くす
- ③ 漢字を読む順番…2・1・3
書き下し文…吾と
- ④ 漢字を読む順番…3・2・1
書き下し文…正さず

考え方 ① 書き下し文では、送りがなは歴史的仮名遣いを用いてひらがなで書くので、「行ふ」は「行ひ」と書きます。「行ひ」としてならぬが、ひらがなに改め、し点にしたがって「吾と」「と」と書き下します。④「不」「は」「と」という否定を表す助動詞なので、ひらがなに改め、し点にしたがって「正さず」と書き下します。

まとめテスト10

- 1 ① 漁夫の利 ② 杞憂 ③ 五十歩百歩

- 2 ① 2 ② 1 ③ 2 ④ 3 ⑤ 1 ⑥ 2 ⑦ 4 ⑧ 3

- 3 ① 3 ② 1 ③ 2 ④ 3 ⑤ 1 ⑥ 2 ⑦ 5 ⑧ 3 ⑨ 4

- 4 (上から) ① 4・2・1・3 ② 1・2・4・3 ③ 4・3・1・2

- 5 ① 日はく ② (上から) 頭・山月・望む ③ 覚えす

TEST 古典 総まとめテスト

- 1 ① におえ ② ならん ③ うい ④ きょう ⑤ えい

- 2 ① ① いと おし ③ ものおもい ② ② かわいそうだ ④ 引は連れて

- 3 ① (上から) 大器・晩成 ② (上から) 備へ・憂ひ ③ 虎の威を

ヒント ② 送りがなは、歴史的仮名遣いのままひらがなに書きます。

- 4 ① ① ア ② イ

② 例でできなかった() できない 「できないものだ」(な)

考え方 ② 「能は(能は)能はす(能はす)は不可能の意味を表す言い回しです。